

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【国 語】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
2 東京書籍	<p>(1) 単元の配列については、各領域をつなぐ教材として「学びを支える言葉の力」を設定し、各領域の学習に活用できる工夫が見られる。また、学年末教材に、1年間で身に付けた力を使って自分や社会の課題について考える総まとめの教材が設けられ、学習で身に付けた力の定着と活用を促す工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、全ての単元のはじめに学習のポイントとして示された「言葉の力」を基に、読み深めたり、グループで話し合ったりする学習活動を設けることで学びを深めながら学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性については、各教材に示した二次元コードにデジタルコンテンツの内容を分かりやすく示し、生徒が必要に応じてすぐに参照できる工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が自分の思いや考えをまとめ、伝え合おうとする態度を育むために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の単元では、言語活動のポイントを「言葉の力」で細かく示しており、生徒が思考の整理をしやすくするなどの工夫が見られる。</p>	<p>1年 P128 1年 P220</p> <p>1年 P126</p> <p>1年 P126</p> <p>1年 P51, 176 211</p>
15 三省堂	<p>(1) 単元の配列については、「読むこと」の領域の単元において「読み方を学ぼう」を設定することで、学びを広げたり、深めたりする工夫が見られる。また、「読むこと」の領域の学習と「書くこと」の領域の学習を関連付けた単元も設けられていて、領域の同士をつなげることで、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、巻頭に示された「思考の方法」で問いをもつことの大切さに触れ、思考を手助けするチャートの一覧を示すことで、生徒が問いをもちながら学習活動を進めることができる工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性については、巻末における「二次元コード参照先コンテンツ一覧」において、資料の種類を分かりやすく分類し、生徒が必要に応じて活用できる工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が自分の思いや考えをまとめ、伝え合おうとする態度を育むために、「話すこと・聞くこと」の領域の単元において、話し合いを効果的に行うための「話し合いのこつ」を系統的に示しており、生徒が基礎を理解した上で活動に取り組めるなどの工夫が見られる。</p>	<p>1年 P78 1年 P4</p> <p>1年 P16～20</p> <p>1年 P358</p> <p>1年 P38, 224</p>

17 教育出版	<p>(1) 単元の配列については、応用的な問題として「学びのチャレンジ」が配置され、自分の学びを確認できる工夫がされている。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の単元では、教材末尾に学びを生活にどのように生かすことができるかを示すことで、学習内容の定着と活用を促す工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、教材の冒頭で「学びナビ」が設定され、何を学ぶかを明確にすることで、生徒の主体的な学びを引き出したり、読みを深めるための思考のヒントを具体的に示したりするなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性については、二次元コードに示してある「まなびリンク」において、学習に役立つ情報をウェブサイトから参照し、活用できるようにする工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が自分の思いや考えをまとめ、伝え合おうとする態度を育むために、「話すこと・聞くこと」の領域の単元「書くこと」の領域の単元の前に設定された「学びナビ」の中で、取り組みやすくするためのヒントが示されているなどの工夫が見られる。</p>	<p>1 年 P192 P53、77</p> <p>1 年 P90</p> <p>1 年 P14 P106</p> <p>1 年 P45、51、 75、103 185、225 229</p>
38 光村図書出版	<p>(1) 単元の配列については、教材につながりをもたせ、資質・能力を活用して学びを深めたり、異なる領域で同じ話題を扱い、考えを深めたりする工夫がみられる。また、教材の後に設定した「学びのカギ」を手掛かりに、「学びへの扉」に沿って学習することで、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、教材の学習の流れが段階的に示された「学びへの扉」や学習のポイントがまとめられた「学びのカギ」が設けられ、生徒が見通しをもち、自らの学びを確認しながら学習に臨める工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性については、「ICT活用のヒント」において、各領域でのICTの活用場面や参考となる資料を示し、効果的にICTを活用することができる工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が自分の思いや考えをまとめ、伝え合おうとする態度を育むために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の単元では、学習の流れを単元のはじめに示し、到達目標を明確にすることで生徒が思考の整理をしやすくするなどの工夫が見られる。</p>	<p>1 年 P137、138</p> <p>1 年 P114、115</p> <p>1 年 巻末</p> <p>1 年 P34、54 116、140 192、228 234</p>